

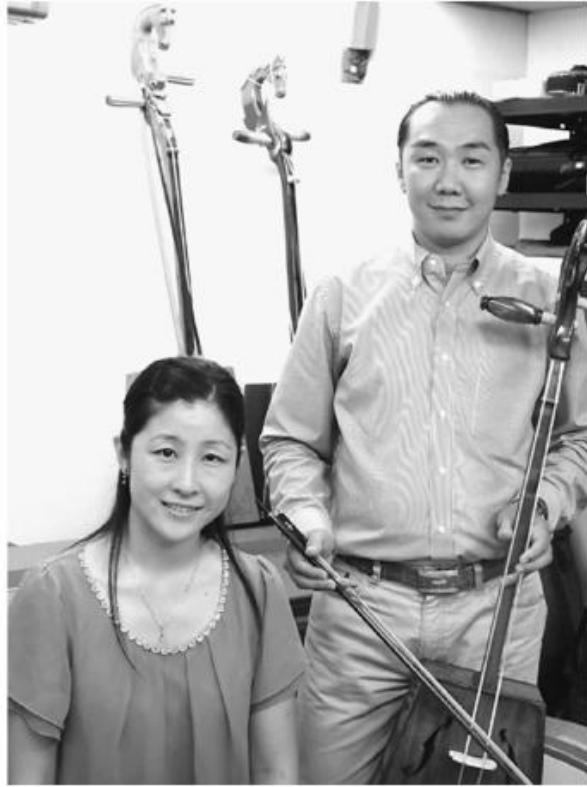
モンゴル音楽で婦民コンサート 「草原の風のしらべ」

マハバル・サウガゲレルさん
山本敦子さん

年末恒例の婦民コンサート、今年はモンゴルの民族音楽です。名付けて「草原の風のしらべ」。出演はモンゴル音楽の名手、マハバル・サウガゲレルさんと山本敦子さんです。

モンゴル音楽の楽器は、横笛リンベ、ホーミー、馬頭琴、ヨーチン、サウガゲレルさんと山本さんが演奏されるものだけをとっても実に多彩なのです。まず、楽器の解説をしていただきます。

リンベは民族楽器の笛。



ホーミーはモンゴル国の西部で発祥した独特な歌唱法で一度に低音と高音の二つの音を同時に歌う伝統的な芸術です。馬頭琴、棹の先端に馬の頭部の彫刻が施され、弓も弦も馬の尻尾の毛で作られています。そしてヨーチンは台形の共鳴胴の上に百五十本ほどの金属弦を平行に張っており、それを二本の竹のパチでたたいて音を出す楽器です。今回の婦民コンサートでは、サウガゲレルさんがリンベ、ホーミー、馬頭琴などを、山本さんがヨーチンを演奏します。

サウガゲレルさんの音楽

への道は八歳の時、お母さんが地域の音楽センターに連れて行ってくれたことに始まります。モンゴル国立音楽舞踏学校から国立文化芸術大学に進みリンベとホーミーを学びました。「モンゴルでは国が非常に民族音楽を大事にしています」とサウガゲレルさん。モンゴル国は国土の六〇%が牧草地。一九八八年から民主化運動が活発化、一党独裁を放棄して九二年、モンゴル人民共和国を現国名モンゴル国にあらためました。

プロ部門銀賞受賞。国立歌

舞団に所属し、フランス、ロシア、日本、韓国など世界各地で演奏。九九年から中国上海に留学、卒業と同時に二〇〇四年から日本に在住。日本各地でモンゴル伝統芸術を紹介する演奏活動を行なうほか、大阪、東京で横笛やホーミーを指導しています。「なぜ日本に？」という問いに「琴も尺八も日本の伝統芸術は素晴らしい」と。二〇一〇年、モンゴル国から「文化芸術功労章」受章。モンゴル伝統芸術協会会長、日本ホーミー協会会長。

歳で全国リンベコンクール

山本さんは神戸生まれ。

大阪音楽大学打楽器専攻卒業、同大学専攻科

修了。高校時代にヨーチンに出会い、そのとりに。モンゴル国のヨーチンをモンゴル国立音楽舞踏学校教授チルハスレン氏に、また中国の楊琴も学びました。現在フリーのヨーチン奏者として、ソロ、伴奏、

アンサンブルで演奏するほか、マリンバ、打楽器奏者としても活動。ヨーチン独奏で〇七年、大阪国際音楽コンクール民族楽器部門第二位（二位なし）。モンゴル伝統芸術協会理事。

「モンゴルには美しい曲がたくさんあります。音楽を通してモンゴルという国を少しでも知っていただけたらうれしいです」と、サウガゲレルさんと山本さんは口をそろえました。